Jao ニュース

３８４号　２０２３年１１月

発　行　じゃおクラブ
責任者　大澤　輝之
編　集　事務局
ＵＲＬ　https://jaoclub.com/

事務局だより

１．10 月 1 日現在の会員数

湘南	県央	ベイサイド	多摩・田園	計
41	37	32	30	140 名（E グループ会員：126 名）

10 月 1 日付　入会　　小糸　賢司氏（湘南）
　　所属地域変更　　片山　隆行氏（県央⇒多摩・田園）

２．運営委員会より
定例の運営委員会は 10 月の開催予定はありませんでした。

３．次回の運営委員会
日時：2024 年 11 月 26 日（日）10:00～12:00　オンライン開催
議長：高橋委員、書記：竹内委員

HP サークルはオープン化後、初の会議を開催しました

10 月 22 日（日）、HP サークルはオープン化後、初の会議をオンラインにて開催しました。会議には、合計で 9 名が参加しました。うち 2 名は新たに参加された方々です。

今回の会議では「じゃおクラブのホームページに求められるものは何か？」「それを実現するには、どうすれば良いか？」という 2 つの課題に対して自由に意見を出し合いました。

参加者からは、現在は、ホームページで会員向けと一般向けの両方の情報を提供しているが、会員の活動を共有する方法としては、ホームページ以外の手段もあるのではないかとの提案がありました。また、一般向け、特に会員獲得のためには、情報を絞り、工夫して分かりやすいホームページにできるとの提案がありました。

HP サークルだけで解決できることではありませんが、会員の高齢化や 65 歳以下の入会促進、ホームページ制作スキルの継続と引き継ぎなども話題になりました。

予定された 1 時間半の間、真剣に集中した議論ができたと感じております。お忙しい中、参加された皆様、ありがとうございました。

HP サークルは今後も月一回の割合で、話し合いを続ける予定です。

次回の会議は 11 月 18 日（土）15:30～17:00 にオンラインで開催します。参加ご希望の方は、11 月 11 日（土）までに運営委員の竹内までお知らせください。

（多摩・田園　竹内　純一　記）

会員だより

町田ゼルビアと私

多摩・田園　横山　速一

ゼルビアの歴史と特徴

町田ゼルビアトップチームが設立されたのが 1989 年です。現在の J リーグチームの殆どは J リーグ発足に伴って、最上部にある社会人チームの下にユースやジュニアのチームを追加設置したものです。一方、ゼルビアは、小学生チームからスタートし、ジュニア、ユースとチームを組みたてていった唯一のチームです。1993 年の J リーグ発足以前に J リーグの地域密着型精神を確立していたのです。関係者の功績です。

私は、2006 年頃からゼルビアのサポーター（サッカーファンではなくサポーターと呼ぶ）に加わりました。この時、ゼルビアは関東リーグ 2 部に居ました。（我が国サッカー界の構成は、東京リーグ（1～4 部）、関東リーグ（1・2 部）、JFL、そして J リーグ（J1、J2、J3）当時、ゼルビアは弱小の地方クラブに過ぎず、J リーグは夢のまた夢でした。観客数も 1000 人前後で、私は芝生席に寝転んで観戦していたことを覚えています。

ゼルビア全国区へ

2008 年に関東リーグ 1 部で優勝した町田ゼルビアは、2 度目の JFL 昇格試合に臨みました。もう時効だと思いますが、筆者は広島での出張を終えて、その足で鳥取にて開催の一次予選に向かいました。先制を許した後、攻め続けても得点に至らず、今年も駄目かと思った残り 1 分、奇跡的な同点弾が生まれ、最終的に PK 戦で勝利を勝ち取ったのです。ゴール裏の芝生席で町田から遠征してきた僅か 20 人弱の見知らぬサポーターと肩を組んで喜んだことを覚えています。

二次予選は何故か石垣島で開催されました。筆者は翌日に東京で重要 ? 会議を控えていたので、試合途中で石垣島会場を離れました。見事な結果は後で知りました。いずれにしても、この、地味な地方チームが全国区に躍り出た場面に巡り合う幸運を得たのであります。

ゼルビアの現在・未来

この弱小チームが現在は J2。それだけでも驚きですが、なんと今年は J2 で優勝しそうな状況です（この文章が掲載される頃は優勝が決まっていることでしょう）。昨年までは、昔の阪神タイガースのように勝つことが珍しいチーム（筆者の主観です）で試合観戦後は、しばしば、疲労し俯きながら帰宅しました。もっとも、この敗北感には快い中毒性もあることも知りました。が、やはり優勝は一生に一度は見てみたい景色です。

リーグ戦開始前に町田の優勝を予想した解説者はいませんでした。なぜ、急に強くなったのか？高校サッカーの名門である青森山田高校から黒田監督を抜擢したことを理由の一つに揚げない人は少ないでしょう。高校チームの監督がプロチームの監督としてやっていけるのか、巷間ではネガティブな反応が多かったと思います。数年前からゼルビアはサイバーエージェントが所有していますが、如何にも新進気鋭の会社らしい決断だったと感じます。J リーグに新しい風を吹き込んだわけです。自由民権運動を礎とする自立心の強い土地柄の町田市にピッタリのチームカラーだ等と妄想するのも、また楽しみの一つになります。

来年は J1 で、どんな景色を見せてくれるのか。町田ゼルビアのサポーター人生は、もう一つの小さな自分史です。

ふる里（高知）に関係した最近のテレビドラマ２つ

県央　和田　大志郎

１つ目はこの９月末に終了した「らんまん」。主人公のモデルとなった牧野富太郎博士はJR高知駅から特急で西へ約30分の高知県佐川町生まれの植物学者。佐川町の入り口にはテレビの影響か、最近「まきのさんの道の駅」が開店し、賑わっている。因みに主人公の妻を演じ話題になった若手女優浜辺美波さんは、紅白歌合戦の司会者を担当するとのこと。

佐川町に隣接する越知町の**横倉山**は地層の関係で希少植物が多く自生しており、若き主人公が足繋く通った場所として知られている。番組オープニングのタイトルバックに短い時間ですが横倉山が２回映し出され、当地出身の家内はこの画面を見ることを楽しみにしていた。当地出身者は**仁淀川**の水面（みなも）に写る横倉山の風景を懐かしく思い出しながらドラマを楽しんだでしょう。

夏の横倉山と清流仁淀川

さらに、横倉山には平家伝説が残っている。壇ノ浦で入水したとされる幼少の安徳天皇は、実は生き延び、四国内を転移した後、ここ横倉山で何年間か過ごした後、当地で没したとの伝説。諸説ありますが当地には平家関係の史跡が残っている。

２つ目は昨年の大河「鎌倉殿の13人」。主人公北条義時との政争に敗れた和田義盛一族は協力者を含め殆どの関係者が命を落としたが（和田の乱）、生き残った者は地方に逃れた。高知県の山奥（四国山脈の早明浦ダム近く）に逃れた者は当地で**土佐和田城**（山城）を築き、神社（子守宮）を祀り子孫を繋いできた。土佐和田城址から南の高知市側へ一山越えた地区出身の小生は、大河ドラマを機に昨年秋、初めて現地を訪ね、参拝もした。天候に恵まれ紅葉が素晴らしかった。和田城址の登り口には「土佐酒造」がある。同社は最近若手経営者のもと、パリでの日本酒発表会に出品し賞を貰うなど頑張っている。秋の夜長、同社の純米大吟醸フルーツ味の桂月（お手頃価格）を嗜（たしな）みながら、ふる里の風景に思いを寄せ、歴史ロマンに浸っています。

秋の土佐和田城址

じゃお湘南

農園日記―開設当時のじゃお農園その④

「ふれあい・交流ひろば」での野菜販売

永田誠さんは「野菜の直売」に力を入れられた農業者の一人だった。記憶に新しいのは、1996 年～1999 年の 4 年間にショッピングセンター「港南台バーズ」で行った「ふれあい・交流のひろば」での野菜販売だった。「ふれあい・交流ひろば」の旗振り役は「市民の会」の大塚武さんだった。大塚さんは元じゃおクラブ運営委員をされた方で、その縁でじゃお湘南も参加することになった。「市民の会」は「アルミ缶の回収」の売上金を継続的に障がい者作業所とユニセフに寄贈をしているが、その回収実績は横浜市の中でかなりのものだったそうだ。

「ふれあい・交流ひろば」は地域作業所を中心とする福祉団体 20 団体と市民の会・じゃお湘南・他市民団体・学校から 25 団体、の合計 45 団体が参加して 5 月下旬の 4 日間「港南台バーズ」1 階で行われた。障がい者地域作業所の製品・ボランティアの手作り作品・第三世界からの輸入品・永田農園の野菜を販売し、収益金は参加福祉団体とユニセフに寄贈された。集客のため人脈と地縁を活かして手話ダンス・手話コーラス・ハンドベル演奏・男声合唱・絵画の展示等が行われた。

地域作業所の製品は日野高校（港南）・山手学園（栄）の生徒さんが販売し、ハンドベルは横浜女子短期大学（港南）の皆さんが演奏した。会場は来場者で溢れ、永田農園の新鮮野菜は大人気で搬入するたびに完売するのでうれしい悲鳴をあげたのである。野菜だけではない。売場のあちらこちらで「完売！」の声。その声に全員が拍手。販売の達成感を味わうことが出来た。足りないときは永田さんと一緒に近隣農家に頭を下げて予定外の収穫をお願いして即会場まで運んだのである。寄付のための特別価格のせいでもあるが「港南台バーズ」に隣接する T 百貨店の店員さんまで買いに来たのである。

初年度（1996 年）は販売価格（寄付額）の設定、値札の作成はすべて永田さんがされたのだが翌年から仕入れ、運搬、販売の一切の活動をじゃお湘南が行うことになった。販売価格はじゃおクラブが自由に設定したのである。売上は回を重ねるごとに伸び、永田農園の作物だけでは間に合わず、足りない分は永田さんが近隣農家や JA から集めてくれた。運搬には軽トラックでは間に合わず 2 トントラックを使用する。翌日の準備のために会場から 15 キロの距離を 1 時間かけて運転して夕方 4 時に永田農園に戻り野菜の包装をする。4 日間に及ぶ活動は 60 代とは言えきつくプロの厳しさを思い知ったのである。

仕入れについては本来じゃおが全責任をとるところ、永田さんから売れ残っても心配するな、自分の方で処分するから、と言われた時は涙が出るほどうれしかった。じやおクラブの参加メンバーも徐々に増え、1999 年には 16 名になり、永田さんと近隣農家の皆さん、市民団体の皆さんのおかげでこの一大事業を乗り切ることが出来た。しかし　あまりに売れ過ぎたのか、5 年目に T 百貨店から野菜の販売を遠慮してほしいと言われじゃお湘南は撤退したのである。1997 年から 3 年間の野菜の売上実績は 1,500,000 円、寄付額は 220,000 円であった。

（湘南　島村　忠男　記・写真）

JAVIC（仮想投資クラブ）2023 年度　上半期活動報告

JAVIC（仮想投資クラブ）は、上期（4 月から 10 月）と下期（10 月から翌年 4 月）の期間において、割り当てられた仮想の元本 1 億円をどれだけ増やせたかを競っています。

この 6 か月間（下表参照）は、日本株が好調でした。日経平均が 27,800 円台で始まり途中 33,000 円台まで上昇しましたが最後はほぼ 31,000 円と当初 4 月から約 11%増でした。一方、米国株は、NY ダウが途中 3～4%上昇しましたが、最後はほぼ 4 月と同水準に、大型株の S&P500 は+5%、ナスダックは＋11%と少し回復基調にありました。為替は円安まっしぐらという感じで、対ドルで 17 円、対ユーロで 15 円程度安くなっています。金価格は 9 月に税込み 1g1 万円を突破して「有事の金」の格言どおりの相場になっています。

上述のように、この 6 か月間の市場状況はかなり良好でしたので、元本を増やせる環境にありましたが、個別銘柄の動きは必ずしも市場全体の流れどおりにはならないのが常ですので、最終結果は下記の通りでした。1 位の Ma 氏は+22%と日経平均を 2 倍近く上回る好成績でした。2 位の O 氏は 7 月までは破竹の勢いでしたが、以降は小型株が大幅に落ち込み+10%にとどまりました。S 氏は 7 月以降市場が落ち込む中で、後半の 3 か月間が増益でしたのでマクリ賞を獲得しています。この他、各人が指定した 2 銘柄の月々の上昇率で競う月間賞の表彰もしております。

2023年10月9日

2023年度上期　JAVIC投資　月次報告表

1.　総合成績　　決済日：10月6日

氏名	開始月	銘柄数	5月	6月	7月	8月	9月	10月	順位	マクリ
O	4月	10	**104,614.6**	**121,094.3**	**128,794.4**	**125,062.6**	**121,253.6**	**110,150.8**	2☆	-18,643.6
K	4月	2,6,10	99,796.0	104,605.2	105,718.9	103,639.9	104.761.9	97,891.9	5	-7,827.0
S	5月	10	102,010.3	107,425.9	107,081.6	102,737.8	111,027.0	108,221.5	3	**1,139.9**
F	4月	8	**103,186.0**	107,864.5	110,575.0	109,743.0	107,708.5	106,675.5	4	-3,899.5
Ma	4月	5,8,9	102,541.0	**118,104.0**	**124,647.9**	**126,341.3**	**128,609.5**	**122,388.3**	1☆	-2,259.6
Mi	4月	8	102,208.0	102,579.0	104,366.0	102,776.5	106,204.0	97,865.0	6	-6,501.0
日経225	27,818.31(100.00)		29,157.95(104.82)	32,265.17(115.99)	32,338.42(116.25)	32,192.75(115.72)	**32,606.84(117.21)**	30,994.67(111.42)		
TOPIX	1,965.44(100.00)		2,075.53(105.60)	2,224.32(113.17)	2,254.90(114.73)	2,274.63(115.73)	**2,359.02(120.03)**	2264.08(115.19)		
NY.Dow	33,485.29(100.00)		33,678.07(100.58)	33,876.78(101.17)	33,734.88(100.75)	**35,065.62(104.72)**	34,576.59(103.26)	33,407.58(99.77)		
INX(S&P500)	4,105.02(100.00)		4,118.58(100.33)	4,298.86(104.72)	4,398.95(107.16)	**4,478.03(109.09)**	4,457.49(108.59)	4,308.50(104.96)		
COMP(NASDAQ)	12,087.96(100.00)		12,078.91(99.93)	13,259.14(109.69)	13,660.72(113.01)	**13,909.24((115.07)**	13,761.53(113.84)	13,431.34(111.11)		
米ドル	132.13		136.53	139.41	142.07	141.75	147.81	149.32		
ユーロ	143.98		150.18	149.83	155.81	156.07	158.14	158.07		
金(1g,円)税抜	8,542.72		8,800.00	8,833.64	8,881.81	8,932.73	**9,143.64**	8,746.36		

JAVIC のメインの活動は、仮想投資の成績を競うことですが、毎月の定例会はまずは直近の世間一般の動きに対しての歓談から始まります。株や為替の話というよりは、世間で話題になっている政治、経済、スポーツ、病気（コロナ）等々の話がメインです。重要なのは、世間の動きから取り残されないようにいろいろな情報に触れることではないかと考えています。また、高齢化の進む中で定期的にメンバーと会って談笑することは、専門家も指摘しているように認知症の予防など健康の維持にも繋がるとも思っています。

メンバーは 2023 年度下期からは 1 名が新たに加わり、7 名で投資成績を競うことになりましたが、10 名程度参加者がいるとますます多様になると思いますので、ご興味のある方は是非ご連絡ください。体験参加も歓迎しております。

（湘南　大出　佳和　記）

じゃお県央

江戸歴史探訪-その九

- 向島散策
- 日時：2023 年 10 月 7 日（土）10:30～15:00
- 参加メンバー：大場 幸雄（県央）、石川 武司（県央）、別所 洋一（県央）、坂井 靖夫（県央）、安藤 翔二（ベイ）、鈴木 寿一（県央）、原 建吾（県央）、星野 道雄（県央）、小瀬 勝（県央）、前田 康行（県央）

当企画も振り返れば 9 回目になりました。ひょんなことから始まった江戸街歩き。8 回経過したところでコロナが。昨年（2022 年）コロナ明けの復活を企図したものの雨で無念の中止。というわけで 2019 年 10 月谷中七福神巡り以来 4 年ぶりの江戸街歩きになりました。

今回は向島。この向島という地名ですが、当代随一の大都会であった浅草から隅田川をはさんで向こう側に見える島、これがつまり向島なんですね。ずっと昔は田畑が広がる農村地帯だったそうで、浅草の人からは、川向うと田舎扱いされていたそうです。実際、向島は「寺島ナス」の産地だったとの説明板が白髭神社にあります。関東大震災後、向島の開発が進み、今のような町が出来てきたそうです。江戸時代とはいささか異なりますが、まあ、往年の風情を感じることができるなら、それはそれでいいか、ということで向島をそぞろ歩きです。

出発は東向島駅。なんとも趣のない駅名。私が 30 代の頃九州で勤めていた会社の本部がここいらへんにありまして、むかーし一度来たことがあるんですが、その頃は「玉ノ井」駅という名前だったんですよ。これ遊郭の名前です。先ほどの関東大震災後に、私娼街ができたんだそうです。ちなみに吉原は公娼街。で、今から 30 年ほど前に、遊郭の名前が駅名では世間体が悪いとでも思われたか、今の駅名に変更されたとか。なんとも無粋な話ではあります。「玉ノ井」なんていい響きだと思うんですけどねえ。

それにしてもここらへん界隈、散歩するにはいいところですよ。耳に馴染みの人物名があちこちに出てきますもん。幸田露伴、榎本武揚、正岡子規、野口雨情、王貞治などなど。明治の文豪って名前は知ってるけどその作品に接したことはありませんですねえ。でもこれだけ名前が出てくると興味はわきます。それに吉備団子屋さんあり草餅屋さんありです、情趣をそそりますよね。この吉備団子、なかなか美味しかったけどもうちょっと大きいといいなあ。また、名にし負う向島芸者さんたちの見番所（芸者さんの取次なんかを行うところだそうです）なんかもあります。今でも向島には料亭がいくつもあって、たくさんの芸者さんがいるんですって。料亭も芸者さんもとんと縁のない田舎者としては、ただふーんと頷くだけですけど。川沿いに有名な言問い団子屋さんがあって興味をそそられるんですが、この団子、まあ値の張ること。なんかもう観光地値段というか、この値ではちょっと手が出ないなあ。墨田川べりの人道橋、桜橋のたもとで昼食。人道橋越しに眺める対岸の浅草の遠景もなかなかいいですよ。昼食後、三囲

（みめぐり）神社、牛嶋神社、隅田公園を巡り、隅田川沿いの明治天皇玉座（ここからレガッタをご覧になったとこ）碑、半藤一利さんの書いた隅田川レガッタの記念碑を見て、最後に墨田区役所脇の勝海舟銅像前で集合写真の撮影。その後、新しくできた隅田川リバーウオーク（人道橋）を渡って対岸の浅草に渡りました。頭のすぐ上を東武電車が通るのがなかなかの迫力。浅草は向島とは打って変わってすごい人並。インバウンドが戻ってきております。和服の女性がちらほら見受けられますが、たいていは日本人じゃないんだそうですね。それにしても浅草はちょっと混み過ぎ。浅草特有の情緒というか風情というか、そういった雰囲気を味わうのはちょっと無理。

それにしても、ほんとにいい天気に恵まれました。関東地方では久しぶりの好天だったそうで、天は我々を見捨てなかったなあと嬉しさひとしおでした。いたるところで青空を背景にしたスカイツリーを眺めるのもなかなかよかったですねえ。皆さんに楽しい一日を過ごしてもらえたのではないかと自画自賛。また新たな江戸の散策ルートを探す意欲が湧いてきました。

（県央　前田　康行　記・県央　大場　幸雄　写真）

国立印刷局東京工場見学

今年の施設見学はコロナ禍のために 3 年間も待たされた国立印刷局東京工場に決まりました。10 月 17 日午後、今回は県央のみの参加で 10 名（石川、大場、倉島、小瀬、坂井、鈴木、原、福山、別所、山口）が東京メトロ南北線西ヶ原駅に集合しました。

東京工場は西ヶ原駅を出てすぐ隣にあり、通用門で受け付け証を提示し、各人の持ち物検査、身分証明書確認を済ませたのち、係員の案内で定員 67 名積載荷重 4.5 トンの大型エレベーターで二階に上がり、ロッカーにカバン・カメラ・スマホ・腕時計（カメラ付きの物があるため）を預け、他の見学者と合わせて 30 名が一堂に集合し、映像で 30 分間東京工場の概要説明を受けました。

東京工場は紙幣の抄紙・インク製造・印刷の一貫工程を持つほか、その技術を利用してパスポート・切手・印紙・証紙・官報の印刷も行っているそうです。

次いで別棟にある印刷工場を 15 名ずつ 2 班に分かれて見学しました。ここはガラス越しに工場を見るようになっており、中央にメインの印刷機、左にホログラム貼付機、右に記番号印刷機がそれぞれ数台ずつ稼働していました。現在は来年発行の新札をフル稼働で印刷中でした。

先ず、大判用紙一枚に5枚×4 枚で計 20 枚の紙幣の裏を一度に 500 枚印刷し、検査の後表側を同様に印刷し、再び検査の後ホログラムを貼付し、更に検査の後記番号を印刷してから規定サイズに裁断し、最後の検査をした後百枚ごと、千枚ごとに帯をかけ、フィルムで包んで日本銀行に納入するとのこと。従って 1 万円札の場合は 1 封包が 1 億円分になります。ここまではお金ではなく商品の扱いになっていて、日本銀行から各金融機関に渡されて初めてお金としての扱いになるとのことです。以前は枚数管理のため、従業員が退場時に裸になって確認していましたが、これが不評であり、このように各工程で厳重な検査を行うことにより不良品の発生が殆ど無くなり、枚数のミスも皆無になったと説明がありました。見学時には新 1 万円札と新千円札の表裏大判見本が展示されていました。記番号のつけ方はアルファベットと数字の組み合わせで、現紙幣は A000001A から ZZ900000Z までの約 130 億通りで、一巡するとインクの色を変えて印刷していましたが、新紙幣では AA000001AA から ZZ900000ZZ までの約 3000 億通りになり、大幅に印刷できる枚数が増加したとのことです。なお、使用するアルファベットで数字と間違えやすい I と O は除いているそうです。

見学後は展示室に戻り、紙幣の歴史、原図の描画からビュランという特殊な彫刻刀による原版の作製、デジタル製版と特殊メッキを施した版面の作製、視力不自由者のために付ける識別マーク、世界に冠たる偽札防止のためのホログラムを含む様々な特殊印刷の説明等が展示され、紙幣づくりの全体像が良く理解出来ました。なお、透かしが抄紙段階で作られていることを聞いて、抄紙技術の高さにとても驚きました。また、1 万円札 1 万枚の重さを持ち上げて実感できるコーナーもありました。

見学後は工場前で解散しましたが、一部の人たちは近くの飛鳥山にある渋沢栄一史料館の見学に行ったようです。

（県央　山口　安弘　記・県央　大場　幸雄　写真）

じゃおベイサイド

大山街道を歩く<田村道>(1)　10 月 22 日（日）

大山街道を歩くシリーズ、今回は 2020 年～2022 年に実施の「柏尾道（戸塚～阿夫利神社)」に続く第 2 弾で、「田村道：辻堂北を通る旧東海道（国道 1 号線）四谷辻から分岐、伊勢原に至る」です。江戸時代は大山詣でをした後、江ノ島の弁財天、鎌倉、金沢八景などの景勝地を巡る観光ルートとして多くの旅人で賑わったそうです。

今回は江戸時代の大山詣でに倣い、伊勢原から田村道をたどり、江ノ島への中継点である藤沢を目指します。藤沢までは 6 里強（約 25 キロ）となるため、2 回に分け、今回は前半の伊勢原～寒川駅南の「景観寺交差点（中原街道と交差)」までを歩くこととしました。

国土地理院 GSI Maps（https://maps.gsi.go.jp/index_m.html#14/35.385341/139.325695/）をもとに筆者が作成

旧道は、伊勢原駅南口、線路に沿って厚木方面に 100m ほど戻ったところから始まります。

伊勢原駅（10:00 出発）　→　①「三福寺」横　→　桜台の住宅地　→　②沼目団地入口（道標「左　大山道、右　日向道」）→　③祇園社(布目八坂神社(大山道標))→　④東円寺　→　小田原厚木道路歩道橋　→　渋田川土手道（写真）　→　新幹線高架　→　田村十字路（厚木平塚線と交差）→　⑤旧田村十字路(道標「右　大山道」）　→　⑥八坂神社（昼食）　→　⑦「田村の渡し跡」石碑　→　神川橋（相模川）　→　⑧河原橋（目久尻川）横（一之宮不動尊＋道標「右　大山道、左　江戸道」）　→　寒川市街　→　⑨梶原景時館跡　→　景観寺交差点（中原街道と交差）→　次回へ（藤沢まで)

参加者 8 名、14 時 30 分に無事景観寺交差点に到着、16,700 歩（約 12 km）の行程でした。

田村道は、現在の県道 46 号線（伊勢原藤沢線）にほぼ重なり、立派に舗装されているため残念ながら旧道の面影は余り残されていません。旧道が残っているのは、伊勢原駅から沼目団地入口まで、渋田川沿いの土手から新幹線高架をくぐるまでの 1.5 km、旧田村交差点付近、田村の渡しぐらいです。

参考）江戸時代の旧道との比較方法：「歴史的農業環境閲覧システム比較地図」を利用

（ベイサイド　諏訪 記・写真）

じゃお多摩・田園

横浜を撮る～グラファーズ～

“15 時だョ！全員集合”のもと、ザ・グラファーズの面々がみなとみらい線、10 月 8 日（火）元町中華街駅に集合です。まずはアメリカ山から港の見える丘公園へ突撃です。

港の見える丘公園は、ご存じのとおり横浜港を見下ろす小高い丘にあり、横浜ベイブリッジを望む絶好のビューポイントです。

眺　望

また港の見える丘公園の「イングリッシュローズの庭」は、横浜でも有数のバラの名所ですが、時期外れでバラには会えませんでしたが、バラ以外に四季を通して咲き競ういろいろな草花が我々を迎えてくれました。

横浜ベイブリッジ、横浜港の景色を撮る人、花壇の草花を撮る人、約 1 時間の撮影を堪能した後は、フランス山を通って山下公園へ移動です。

山下公園もバラの名所として有名ですが、バラ以外にも四季折々に咲く草花が植栽されております。バラはなくても、四季折々の草花、氷川丸、横浜マリンタワー、水の守護神などなど被写体には事欠きません。

さあ撮影を堪能した後は、いよいよグラファーズの本命反省会です。何しろ集合場所の元町中華街駅に集まった途端、反省会に行こうかという話があったくらいですから。もちろん近くの中華街へ直行です。いつもの通り反省に、反省を重ねながら一献を傾けお開きとなりました。

（湘南　村田　和彦　記・写真）

グラファーズでは、撮影した写真を月替わりでホームページに掲載しています。ぜひ、ご覧ください。
https://jaoclub.com/tama-denen/gallery/

迫力満点！オーケストラとパイプオルガンの響き

～東芝フィルハーモニー管弦楽団第 50 回定期演奏会～

東芝フィルハーモニー管弦楽団は東芝グループの従業員により構成されたオーケストラで、アマチュアながら質の高い演奏を聞かせてくれます。10 月 8 日（日）は、50 回の節目を祝う定期演奏会でした。今回も知人から招待されましたので、じゃおクラブ内で参加希望者を募り 8 人で行ってきました。

会場は川崎駅前のミューザ川崎シンフォニーホール。スパイラル構造の客席がステージを 360 度取り囲む形式です。内装に木を多用していて、クラシック音楽などに最適な音響が得られます。日本最大級のパイプオルガンが設置されており、そのパイプ総数は 5,248 本です。

東芝フィルハーモニー管弦楽団の特徴は大編成オーケストラならではの多彩な音色と音の厚み、そこから生み出される力強さにあります。この日の選曲も、特徴をフルに生かしており、第 50 回にふさわしいものでした。

- スメタナ：連作交響詩「我が祖国」より 第 1 曲：ヴィシェフラド（高い城）
  全 6 曲から成る交響詩で、スメタナの祖国であるチェコの歴史、伝説、風景を描写しています。チェコの誇りや民族の独立を象徴する名曲として今日まで愛され続けています。

- モーツアルト：交響曲第 39 番
  第 40 番、第 41 番（ジュピター）と共に、モーツアルトの 3 大交響曲と呼ばれます。指揮者の河地良智氏は、終演後の挨拶で「東芝フィルハーモニー管弦楽団は、第 1 回の披露演奏会で、第 40 番と第 41 番（ジュピター）を演奏しました。第 39 番は難しい曲ですが、今回の演奏で 3 大交響曲を全て披露することができました。」と語っておられました。

- サン＝サーンス：交響曲第 3 番「オルガン付き」
  この曲では、パイプオルガンの荘厳な音色が演奏に加わり、圧倒的な迫力で会場を満たしました。今日では、多くのコンサートホールにパイプオルガンが設置され、その音色を楽しめるようになりましたが、サン＝サーンスが作曲した当時は、パイプオルガンの設置場所は主に教会であり、コンサートホールには少なかったそうです。こうして生のパイプオルガンを聴くことができるのは、パイプオルガン普及の恩恵でもあり、演奏会ならではの贅沢な楽しみです。

最後に聴衆のアンコールに応えて、『エルガー：行進曲「威風堂々」 第 1 番』が演奏されました。この日の演奏の余韻に浸るには最適で、聴衆のひときわ大きな拍手と共に演奏会は幕を閉じました。

演奏後、参加者より口々に「良かった」「迫力があった」「感動した」などの感想がありました。今後も機会がありましたら、じゃおクラブの皆様にご案内する予定です。お楽しみに。

（多摩・田園　竹内　純一　記・写真）